

米国の物価上昇は今後鈍化に向かう公算も



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 6月の米CPIの伸びは市場予想以上

米労働省が7月13日に発表した6月の米CPI（消費者物価指数）は前年同月比で9.1%上昇し、前月の同8.6%上昇から伸びが加速するなど、インフレに対する市場の警戒を強める内容でした。

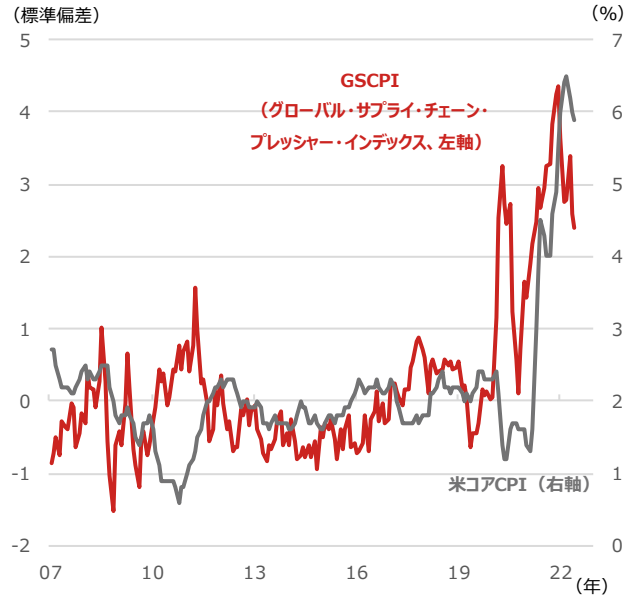
米国のインフレ加速は供給網の混乱に伴う自動車などの財価格上昇や金融緩和による不動産価格上昇の影響を受けての住居費の上昇と、食品やエネルギーといった商品価格の上昇が主な要因です。CPI全体の約3割を占める住居費に関しては今後も伸びが続くとみられ、サービスの物価上昇は続く可能性があります。ただ、自動車などの財についてみると、足元では世界的な供給網の混乱が解消に向かいつつあり、今後は財の物価上昇圧力が和らぐと考えられます（右上図）。

ポイント② 今後米インフレは鈍化に向かう公算も

最近の物価上昇加速の主因となってきたエネルギー価格の伸びが今後鈍化に向かう可能性が高まってきたことも、米国のインフレの先行きを見る上で支援材料といえます。商品価格の総合的な動きを示すCRB指数は世界的な景気減速に伴う需要減少懸念から、6月の高値から15%超下落しているほか、全米ガソリン平均小売価格も同様に8%近く下落しており、エネルギーに起因した物価上昇に今後歯止めがかかることを示唆しています。

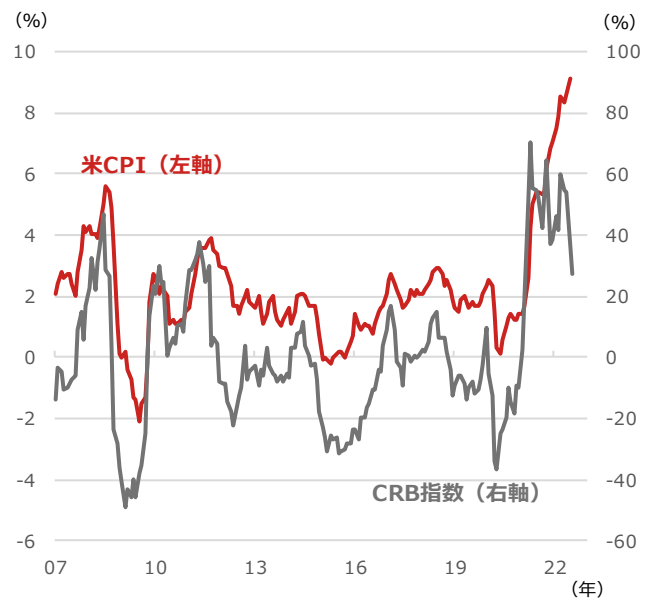
CRB指数の前年同月比は伸び率が低下傾向にあることを考えると、同指数と連動傾向があるCPIも今後伸び率が鈍化に向かうと考えられます（右下図）。実際にそうなってくれば、FRB（米連邦準備制度理事会）の金融引き締めの手綱が緩むことも想定され、米国株相場は年末にかけて徐々に落ち着きを取り戻すとみられます。

GSCPIと米コアCPI前年同月比



期間：2007年1月～2022年6月、月次
・GSCPIはニューヨーク連銀が算出する世界のサプライチェーンの逼迫度合いを示す指数、0を上回ると逼迫、0を下回ると緩和されている状態を示す
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米CPIとCRB指数の前年同月比



期間：(米CPI) 2007年1月～2022年6月、月次
(CRB指数) 2007年1月末～2022年7月13日、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。